

第1日 1月25日（金）午後部

(7) 社会、地歴・公民部会（中・高）		部会テーマ		「教師が教える授業」から「生徒が学ぶ授業」への質的転換を目指して	
内 容	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた社会科、地歴・公民科の授業づくりを紹介する。「多面的・多角的に物事を捉える、様々な考え方を働かせる、課題解決の見通しを持つ、他者と協働的に追究する、深い理解や考えを形成する、新しい価値を創造する」などをキーワードとした授業の在り方について考える。				
指導助言者	宇都宮大学教育学部	熊田 禎介	司 会 者	総合教育センター	興野 寛久
記 録 係	総合教育センター	渡邊 久子	企画・会場係	総合教育センター	日下田圭祐

実践発表1**子どもを中心にした社会科授業づくりへの転換**

鹿沼市立北犬飼中学校 西村 智之

宇都宮大学教職大学院との協働を通して作り上げた授業改善の取組の中から、「子どもにとっての学び」とは何かを考える。鎌倉時代の実践において、省察をもとに授業をどのように構想していったのかについて報告する。

実践発表2**対話を通して学びの活性化を図る授業実践**

県立大田原高等学校 片柳 剛史

生徒同士が対話を通して、主体的・協働的に問いに取り組むために「知識構成型ジグソー法」を活用した授業実践を行い、生徒にとって深い理解や考えの形成につながる歴史学習を目指した実践例を報告する。

研究協議**授業改善の実践における課題とその解決に向けて**